

土着した北朝からの使者が建立した供養塔

かとうけ いたび ごりんとう
加藤家の板碑・五輪塔



先祖は新田氏家臣の加藤伊勢守藤原義清で、室町時代初期の延文4年(1359)※1
に、足利尊氏方に味方するよう在地の武士に催促に来て、そのまま帰農土着し
たと伝えられています。(※1: 延文4年は北朝年号であり、南朝年号では正平14年となる。)

板碑は、緑泥片岩系の石材を使用した武蔵型といわれるもので、全長64cm、
幅19cmあります。貞和2年(1346)※2の紀年銘から、義清が祖先の追善供養に建立
したものと考えられます。五輪塔は、安山岩系の石材を使用したもので、高さ
75cm前後の大きさで、四方に梵字が刻まれた室町時代の特色を良く残していま
す。(※2: 貞和2年は北朝年号であり、南朝年号では興国7年となる。)

市指定文化財：有形文化財（彫刻）

指定年月日：昭和45年6月11日

所在地：木更津市矢那

所有者：個人

員数：4基

公開・非公開の別：非公開
